

# 仕組み

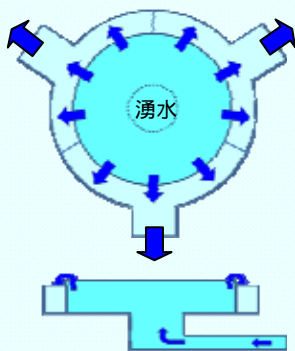
各田んぼへ送水



雉子ヶ沢揚水機場吐出水槽

管理者：水土里ネット村山市西部

(土のうを置いて水量を調節)



中心部から湧水

頭首工や揚水機場から送られてきた水を円筒状の設備の中心部に湧き出させ、円筒外周部から越流させる。外縁部に設ける仕切りの間隔等で、用水が正確に配分される仕組み。転作などにより、配分量を変える場合は、越流部分に土のうやブロックを置いて調整する。

## 日本の技術者が開発！

円筒分水工は日本の技術者が考案し、大正時代に岐阜県で始めて設置された。その後、昭和に入り、全国各地で造られた。

# 県内各地の円筒分水工

飛島  
飛島川



延田堰円筒分水工（鶴岡市）

管理者：水土里ネット庄内赤川



3号分水工（円筒式）（新庄市）

管理者：水土里ネット泉田川



天童第1段吐出水槽（天童市）

管理者：水土里ネット天童



袖崎揚水機場吐出水槽（村山市）

管理者：水土里ネット村山東根



【注意】ここで紹介した分水工は、農業用施設であり、一般の方々が見物することを想定して造られておりません。現地に行かれる場合は、安全に十分ご注意のうえ、また、地域住民の方々に迷惑をかけることのないようご配慮願います。詳細については、事前に施設管理者にお問い合わせされることをお勧めいたします。





水<sup>み</sup>  
土<sup>ど</sup>  
里<sup>り</sup>

ウォーク

# 円筒分水工

えんとどうぶんすいこう

「一目でわかる」「公平性」

噴水でもない・・・「FOO」のような形の構造物から水がこんこんと湧き出ている。このような構造物を見たことはあるだろうか？

実はこの構造物、農業用水を所定の地域に平等に配分するための施設、その名も「円筒分水工」という。

稲作が主体であった日本では、昔から農業用水を確保するための争いが絶えず、時には「血を流す争い」が起きていた。山形県も例外ではない。

人々は限られた水をどのように配分し、地域間の利害を調整するか、長い間、頭を悩ませてきたのである。この問題を解決するために考え出されたのが円筒分水工だ。

中心部から湧き出た水を越流させ、一定の割合で各地域に送水するこの施設は、配分される水量が「誰の目にも明らか」で、不正が行われにくいため、水争いの解決に役立った。

農業情勢が変わり、水争いが昔の話となりつつある現在でも、水を分水する施設としてはもちろん、先人達の苦勞と努力を偲ぶ施設として大切に守られている。